

追悼文

駒田拓也先生を偲んで

松阪中央総合病院

谷川高士(松阪地区)

当院胸部外科部長 兼 心臓血管センター副センター長の駒田拓也先生が、令和3年11月27日にご逝去されました。

駒田先生は、平成元年に三重大学医学部を卒業され、山田赤十字病院(現、伊勢赤十字病院)や三重大学病院などでの勤務、研究活動を経て、平成20年(2008年)4月、当院に再赴任されました。以下は、当院のホームページに掲載されていた赴任時のProfile(原文通り)です。

心臓大血管手術全般に携わっています。200例以上のOPCABの手術経験があります。症状に応じ、バイパスグラフト採取にも内視鏡を使用し、低侵襲手術を志しています。不整脈手術も行っており、一昨年、日本で初めて胸腔鏡下で肺静脈隔離術を行い、孤立性心房細動を治癒することに成功しました。

これまで積み重ねてこられた経験と実績を持って当院に赴任され、Profileにも当時の意気込みや自信が感じられます。当院赴任後は、24時間体制で救急疾患に対応するとともに、低侵襲治療や新たな治療も積極的に取り入れることで手術件数を増やされました。

駒田拓也先生の足跡(2008年~2021年の手術件数)

- ・冠動脈バイパス術：276件(On-pump：168件、Off-pump：108件)
- ・弁膜症手術：274件(弁形成術：178件、弁置換術：96件)
- ・大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁再建術(AVNeo)：146件
- ・胸部大動脈瘤に対する手術：192件
- ・急性大動脈解離に対する緊急手術：129件
- ・腹部大動脈+末梢血管疾患手術：1628件



松阪地域における信頼はととも厚く、他病院からの緊急搬送やクリニックからの紹介には時間に関係なく対応してくださいました。また、地域の枠を越えた救急疾患にも対応され、県内の重要拠点病院としての地位を築くことに貢献していただきました。少人数の体制でも常に最善を尽くされる姿に唯々脱帽の他ありませんでした。

当院は、心臓血管外科との連携をより強化し、この地域における大きな役割を果たすために2017年4月に心臓血管センターを開設しました。信頼できる心臓血管外科医とともにセンターを立ち上げることが私個人の長年の夢でした。その思いを駒田先生と共有することができ、心臓血管センターの開設を迎えた際には万感の思いでした。

循環器内科医にとって心臓血管外科医は重要なパートナーであり、その体制によって私たちの働き方も大きく変わってきます。心臓血管外科のサポートのおかげで、私たちはハイリスク治療にも挑むことができます。時に、救急疾患の対応や合併症に対する処置を依頼することもありましたが、駒田先生はいつ何時でも対応してくださいました。

駒田先生は、仕事の合間を縫って院内の様々なレクリエーション活動にも積極的に参加されました。バレー部、バトミントン部、登山部などに所属し、オフの時間もスタッフとの対話を楽しみ、どんなに忙しくてもスタッフとの時間を大切にされていたことを思い出します。スタッフは、駒田先生の仕事に対する姿勢を肌で感じ、何事にも全力投球の姿に様々な形で影響を受けたことでしょう。

駒田拓也先生が残された功績の大きさを日々感じています。当院はもちろんのこと、三重県の医療界にとっても大切な存在であったと思います。